

## 嵐山から苔寺

京都府山岳連盟トレイル委員会



渡月橋と法輪寺



標識西山 24 阪急嵐山駅前



標識西山 26 松尾山登山口



標識西山 27



竹林のコース

阪急嵐山駅前の標識西山24は、駅前ロータリーの右寄りにある。阪急嵐山駅を降りて西に見える山に向かって駅前の道路を進むと、街道の突当りT字路正面の商店（閉店中）の壁に標識西山25 があり、トレイルコースは左折する。

トレイルコースからは少し外れるが寄り道していこう。標識西山 25 から右へ行くと、左手に法輪寺の大きな石碑と参道が見える。渡月橋から見ると橋の少し上流右岸の山が嵐山(375m)で、その中腹に多宝塔が聳える寺が法輪寺。渡月橋は法輪寺への参拝用に設けられた橋で、昔は法輪寺橋と呼ばれていた。本尊の木造虚空蔵菩薩座像は、日本三虚空蔵菩薩像の一つといわれている。

法輪寺は「十三詣」でよく知られている。「十三詣、昔から上方で広く行われていた風習らしいが、今は発祥の地といわれる京都の法輪寺と、大阪四天王寺の太平寺だけに残っているのだという。数え年で13歳になれば、成人となるための知恵や丈夫な体を授かるために、本尊の虚空蔵菩薩にお参りするといふもので、「十三詣の帰りは渡月橋を渡り切るまで振り返ると折角授かった知恵や福を落とすといわれ、着飾った子供達が振り返らまいと、懸命に我慢している姿はなんとも微笑ましい。

また、惟喬親王も法輪寺に籠もり、「漆器の製造法」を本尊の虚空蔵菩薩によって教示・伝授されたという言い伝えから、漆塗りの祖神としても知られ、その満願の日11月13日を「うるしの日」と定め、供養するのが慣わしとなっている。ちなみに漆器の素地の傷穴等を埋める場合に木粉を混ぜた漆のことを、「コクソ漆」と言うが、その“コクソ”は虚空蔵から転化したものだという。

法輪寺の針供養も有名で、毎年2月8日と12月8日、一所懸命働いてくれた針に感謝する意味で、廃針を柔らかい菟蓐に刺して供養している。「皇居で使用された針を供養せよ」との清和天皇の命により始まったという。現在でも毎年十二月の針供養の際には、皇室からも針を預かり供養をしているということである。

法輪寺の山門をくぐると、石段の途中に「電電宮」という珍しい名前の祠がある。電気電波の祖神として特に雷除けの御利益あらたかで、国内の大手電気・電子関連や放送関連、電鉄会社の崇拝厚く、奉納・寄進者名板が電電宮の周りに林立している。

寄り道はいろんなご利益の頂ける法輪寺界限のみにし、本来のトレイルコースに戻ろう。



標識西山 30



標識西山 32 四辻



展望台からの眺望

トレイルコースは、三叉路の民家壁に掲示の大型標識西山 25 を左折する。すぐ先のガレージフェンス外れが、松尾山登山口で標識西山 26 が建っている。トレイルコースを利用して、地元の松尾学区がハイキングコースを併設、大きな標識が表示してある。標識に従い小路に入ると竹林の中の緩やかな登り道となり、京都市建設局の業務用広場横に標識西山 27 がある。

この小路は里道であるが荒れ果てて通行不能になっていたのを、トレイルコースとして整備し、近隣の生活道路としても活用されて喜ばれていた。過年の台風の倒木で完全に封鎖されたが、何とか元通りに近く復旧できたのだが、現在は住宅地との間の建設局用地がフェンスで封鎖され、生活道路としては活用されていない。

竹林の中の登り道は標識西山 28 で、折り返すように法綸寺の裏山に回り込む。国土地理院 1/2.5 万地形図にある法綸寺に下る道は、廃道で今は辿ることも適わない。竹林も枯死のものが多く荒れた様相であるのは如何なる訳であろう。

標識西山 29 の分岐は左の道をとる。直進する道は岩田山モンキーパークの業務用道路である。

コースはいつか尾根上のルートとなる。この辺り谷を隔てて松籟に吹き渡る風も涼やかに、嵐山山頂が見え隠れし気持ちの良い山道である。途中の分岐標識西山 30、標識西山 31 はいずれも直進する。分岐道はいずれも砂防堰堤の作業道で先には進めない。

やがてルートは岩盤の露出し荒れた急坂を登りきると、トレイル案内板が建つ標識西山 32 の四辻にでる。トレイルコースはここから松尾山三角点を周回してここに戻ってくることになる。この周辺も過年の台風で大きな被害を受けたが、倒木処理後はすっかり明るくなった。



標識西山 32 から右の杉林の中の道に入り、登りついた尾根右手の切り開きは嵐山渡月橋を眼下に、嵯峨野から洛北の山並みまで見渡せる絶好の展望台となっている。

トレイルコースは、展望台から直ぐ先の標識西山 33 を左に標識西山 34 を経て標識西山 35 の松尾山頂上に向かうが、標識西山 33 を右側に進めば、嵐山城址から烏ヶ岳方面に尾根道が続いている。尾根道から嵐山城址への登り口は少し判り難いが、道の右脇に 5 つ、左脇にひとつの石標が固まっている箇所が登り口、気を付けていけば右上の台地に登る踏跡が見つかる。標識西山 33 からは往復一時間程度はみておきたい。

嵐山城は室町時代に山城国五郡の守護代であった香西元長によって明応6年に築かれた。応仁の乱には度々戦場になったという。堀割や土塁、土止めの石積み等の遺構は確認することができるが、城址としてはまったく整備されておらず、過年の台風による倒木も処理が進まず、本丸跡ま



標識西山 35 松尾山々頂



寺院遺跡のある西山 39



林間のトレイルコース



笹原のトレイルコース



図根点ピーク標識西山 43



京都南部のビューポイント

での進入は困難である。

なお、その先の烏ヶ岳から松尾林道終点までも、国土地理院 1/2.5 万地形図の破線路をたどることが出来るが、松尾林道終点ロータリーからトロッコ保津峡駅間は、幾本ものルートがあって判然とせず危険な個所が多い。毎年のように数件の事故が発生し死者も出ている。大きな規制看板と、トレイルの標識西山 33 にも通行不能を表示しているが充分注意したい。ここから標識西山 33 に戻るか、距離は長くなるが林道を苔寺に下山すれば安全である。

標識西山 33 を左奥に進めば標識西山 34 を経て、標識西山 35 松尾山三角点 (276.1m) で、展望は東北方面だけしか開かれていないが、気持ちの良い三角点である。

降りには頂上から南下して、標識西山 32 へと周回するが、松尾山々頂周辺には多くの古墳が点在する。おそらくこの辺り一帯に君臨した古代豪族秦氏の遺構と思われるが詳細は不明である。標識西山 37 を左折し元の四辻標識西山 32 に帰り着く。標識西山 37 を右折するルートは、すぐ先で雑木林の中に消滅してしまう。

トレイルコースは四辻の標識西山 32 から、東へ急坂を下り標識西山 38 から右下に下る。雨天等は特に滑り易い道なので注意したい。この間の右手斜面に、新しく発見された羨道が露出している古墳がある。貴重な遺跡なので傷めないよう気をつけたい。

平らな地形の標識西山 39 周辺は杉の植林帯となっているが、樹間に夥しい松の倒木が見られる。この辺り「松尾」の名の通りかつては美しい松山であったが、松枯れ虫の猛威の犠牲となり、松は全滅し「松尾」の名残もない。この平地には近年に寺院跡が見つかっている。

標識西山 40 周辺もルート上や近辺に古墳らしい大きな岩が点在する。トレイルコースも路面に岩が露出している所は、古墳の上を歩いていくことになる。コース開設時の標識設置場所については、文化財保護課と合同で実地検証した場所である。この辺り松尾大社の裏山にもあたり、奥の院の磐座とされる巨石も近く、聖域に隣接した場所でありゴミ等で汚さないように気を付けたい。

標識西山43の図根点ピークには、林野庁の図根点標石が設置されている。国土地理院の図根点は、図等三角点とも言い三角測量のあとの細部の測量に使用するが、この図根点は林野庁が国有林

地図作成のため独自に設置したものが設置されている。



標識西山 49 のフェンス



急坂に掛けた木製階段



竹林の中のコース



標識西山 51 トレイル終点

標識西山 43 では山道が十字路になっており、東に顕著な踏跡があるが、先の方で不明瞭になるので入らない方が無難である。

標識西山 43 のピークを降ると、視界は狭いものの京都南部が見通せるビューポイントがある。防火水槽のある標識西山 44 には変則的な十字路の分岐がある。右に下る道は松尾谷林道の一ノ沢に降るが、廃道に近く荒れており注意が必要。左に向かう道は、苔寺と鈴虫寺の裏山を通り、やがて急な小道を「谷ヶ堂・最福寺延朗堂」という小さなお堂の境内に降る。

トレイルコースは標識西山 44 を直進し、小丘に登れば標識西山 45 で、コース最後の小憩場所となりベンチが設置されている。

標識西山 45 から西山 48 の間のルートは、急坂もありコースを踏み外しやすいので、比較的短距離で標識が設置されているが、コース外に踏みこまないよう気を付けたい。標識西山 48 を過ぎ手入れされた竹林を左手に見てステップを降ると、鉄線フェンス前の標識西山 49 に降り立つ。

コースは標識西山 49 を竹林の中の鉄線フェンス沿いに左折するが、右方向への踏跡はすぐ先で急崖になっているので立ち入らないこと。

竹林の中のフェンス沿いに下ると、急坂に立派な木製階段が 2ヶ所続いて設置してある。近辺の竹林は京都市制定の風致地区であり景観保全条例で守られている。

標識西山 50 の直進ルートは竹林の中に消えてしまうので、木製の柵に従い竹林の中を降ると、松尾林道（西芳寺川）標識西山 51 で、現在の京都一周トレイルコースの終点である。この林道は一般

車通行禁止だが、標識西山 33 から続く保津峡上部の松尾林道終点ロータリーへ至る。

#### 「所要時間参考」

阪急嵐山駅前 No24 (5 分← →5 分) 松尾山登山口 No26 (20 分← →25 分) 標識 No32 の四辻 (5 分←→10 分) 標識 No34 松尾山 (10 分←→5 分) 標識 No32 の四辻 (25 分← →25 分) 標識 No43 囷根点ピーク (30 分← →20 分) 苔寺川松尾林道 No51 (10 分← →10 分) 苔寺バス停

《 阪急嵐山駅前標識 No24 (1 時間 45 分← →1 時間 40 分) 苔寺バス停 (4.2 km) 》

嵐山～苔寺間のトレイルコース詳細は「京都一周トレイル 西山」地図を参照。

地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは

京都市産業観光局 観光 MICE 推進室 (TEL075-746-2255)

[kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/](http://kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/) 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください

## ◎ 苔寺バス停留所、阪急松尾駅と阪急上桂駅まで



舗装された西芳寺川脇の松尾林道を竹林に沿って下ると、左手の道路脇に山の神の碑がある。古来のものでなく最近の建立である。

続いて松尾林道沿いの松尾古墳群の説明版。続いて橋を渡った左の木立の奥が苔寺である。



向かい側の茶房「緑翠庵」は回遊できる良く手入れの行き届いた石庭が美しく、女主人がドリップしてくれるコーヒーは大変美味で山歩きの後の疲れを癒してくれるが、平日のみ営業は残念である。

通称苔寺、西芳寺（さいほうじ）は、天平年間に行基により開かれ、夢窓国師が禅宗寺院として再興したものと伝えられ、復興当初は、その堂塔伽藍は壮麗なものであったらしい。しかし応仁の乱により建物は全て戦火で失われ、夢窓国師が整備した庭園の構築と石組は構築当時のまま残され、いつしか全てが苔に覆われながら今に残されてきたという。

いわば荒れ果てて廃された庭が、後世に名園と評価されていることになる。しかし、この庭園は後世の庭園に大きな影響を与え、日本庭園史上重要な位置を占めると聞く。

近年に到り苔の生育に支障をきたすとして、通常は庭園のみの拝観は出来ず、写経を含め事前に申し込むことで苔庭も拝観できる。



京都バス苔寺停留所の広場の先を左に入ると鈴虫寺である。鈴虫寺の正式の名称は妙徳山華嚴禅寺。秋に鳴く鈴虫が季節に関係なく一年中鳴いているので鈴虫寺と呼ばれている。鈴虫の飼育には大変なご苦労があると聞く。どんな願い事でもかなえてくださる有名な「わらじばきの幸福地蔵」、地蔵さんがあなたの家まで願いごとをかなえに歩いて来てくださるといふ。独特の和尚の鈴虫説法も聞いて帰りたい。

京都バス苔寺停留所からは、京都駅、三条京阪行がある。阪急線には鈴虫寺の横を山裾に沿って松尾大社から阪急松尾駅に出るルートと、阪急上桂駅に出るルートがある。時間はほとんど変わらない。

苔寺から松尾大社を経て、阪急松尾駅に出るルート途中に月読神社がある。



月読神社、何ともロマンチックな社名であるが、延喜式には名神十社に名を連ねる由緒ある神社で、元々は壱岐島で海上安全を司る神として崇敬を受けていたもので祭神は月読尊。この地に奉斎されたのは斎衛三年（856年）。古代、この地に栄えた秦氏が、月読神社を京都のこの地にもたらすのに大きな力があつたとされ、古代の神祇信仰や渡来文化を考える上で重要な意味を持つ神社であるという。



海上安全、水難除けは無論、子授け、恋愛成就、脇社に聖徳太子を祭るところから学問の神様でもある。境内に植わるカギカズラは、枝に鉤を持ち他の木に引っかけて上へ上へと延びる器用なつる性木で、境内のカギカズラは日本北限で京都では松尾大社、醍醐山以外あまり見られないと聞く。また、「結びの木」は根元で別れた幹が延びるにつれ、上部で何か所も癒着している不思議な樹木である。時間があれば見ておくと話の種になる。



月読神社前を北上すれば松尾大社までは約 400m である。松尾大社、わが国の有力な神社二十二社を選定した式内社（名神大）の一社で旧官幣大社。古事記にも「亦の名は山末之大主神。此の神は近淡海国の日枝の山に坐し、亦葛野の松尾に坐して、鳴鏑を用つ神ぞ」と記され、太秦、嵯峨周辺から旧愛宕郡を根拠とする有力渡来人秦氏の氏神である。祭神は松尾山の神（大山咋神）と中津島姫命を祀る。「賀茂の巖神、松尾の猛神」と並び称され、平安遷都以来、皇城鎮護の神として崇敬されていたが、秦氏は酒造の技術も日本に伝えたことから、中世以降、松尾の神は酒造の神としても信仰されるようになった。社前の全国の酒造業者が奉納した山のような酒樽は壮観だ。山吹の花の美しい社としても知られている。月読神社と共に境内に自生するカギカズラ」は、京都市指定天然記念物に指定されている。



阪急上桂駅へ出る道は、京都バス苔寺停留所の広場の横で、東海自然歩道と合流し、地蔵院の標柱に沿って階段を登る。その先の右手が通称「竹の寺」地蔵院である。



門前から本堂へ続く砂利道の脇は竹林となっている。本尊は、伝教大師の作という地蔵菩薩（通称谷の地蔵）。菩薩の左右には、夢想国師・宗鏡禅師・細川頼之の木像が安置されている。



地蔵院を通りすぎると十字路となる。東海自然歩道は直進するが、右方向に向かう道を行けば墓地を通り抜け唐櫃越に至る。

唐櫃越。上桂周辺では唐櫃越も明智越と呼ばれている。歴史ある古道で、天正十年(1582年)、通説では、明智光秀は老ノ坂越に至り領袖達に「敵は本能寺にあり」と告げたとされるが、実際は亀山城にあるときに既に準備を整え、陣容を三つに分け老ノ坂越・唐櫃越・明智越から本能寺へ攻めいったという。唐櫃越・明智越はともにかなり険しく、往古は判らないが現在は人がやっと1人通れるほどの隘路もある。

阪急上桂駅は地蔵院の先の十字路を左折する。コンビニが並立する旧西国街道（物集女街道）の交差点を過ぎ、やがて踏切が見えれば阪急上桂駅である。

## ◎ 西山山麓トレッキングコース

近年に新しく西京区と近隣の松尾学区が設定した、京都一周トレイルコースの終点、松尾林道標識西山 51 から、唐櫃越を経て桂坂住宅地までの「西山山麓トレッキングコース」の概要も紹介しておこう。嵐山からトレイルコース終点まではトレイルコースを共用している。



西山 51 唐櫃越は谷を渡渉

松尾林道のトレイルコース終点標識西山 51 から、西芳寺川の鉄パイプ階段を降りて対岸に渡渉する。橋は設置していないから増水時は無論、渇水時でも滑らないよう注意して渡る必要がある。

少し登ると深い谷の横をへつる道や、谷を渡る木橋がある。いずれも路面は整備してあるが手摺は設置していないので、スリップしないように十分注意したい。矢印に従い、標識西山 51 から 500m 程で、竹林の中の「唐櫃越え」の道と合流する。

この地点を「丁塚」という。左へ降れば墓地を通り抜け阪急上桂駅への道となる。桂坂へは「唐櫃越え」を右方向に進む。さすが踏み固められた古道は歴史の重みを感じる。



唐櫃越 野鳥遊園展望台

周囲は手入れの行き届いた名産「筍」の竹林から、常緑樹の植生と変わるが結構の登りもある。やがて古道は桂坂野鳥遊園の遊

歩道となり、途中の「ハイノキ坂」分岐をやり過すと尾根道となる。

合流点から約 1.5km、遊歩道最高点の展望台からは京都盆地南部の大展望が待っている。展望台の傍から野鳥遊園への「ソヨゴ坂」という急坂の遊歩道が分岐する。やがてベンチが設けられた小さな広場の先の分岐が「リョウブ坂」で、分岐をそのまま進むと「沓掛山三角点 415m」を経て、亀岡盆地の「馬掘」に出る「唐櫃越え」となるが道は遠い。

「リョウブ坂」も岩混じりの急坂で慌てないように注意して降りたい。「リョウブ坂」の途中から「ソヨゴ坂」へのバイパス分岐がある。「リョウブ坂」を谷筋に降りると、給水タンクを左上に見てコースは「桂坂野鳥遊園」の裏側の入口に導いてくれる。「リョウブ坂」と「ソヨゴ坂」は給水タンクの下で合流する。

「桂坂野鳥遊園」では大きなガラス張りの観測棟「観鳥楼」から、備えられた望遠鏡で目の前の池を中心とした「バードサンクチュアリ」ゾーンを観察できる。案内書には「気軽にバードウォッチングが楽しめる野鳥園（月・火閉園 但し祝日は開園、開園時間は 10:00～17:00 無料開放）百種類近い野鳥が観測できる」とある。鴨、カワセミ等はいつも観察できるが、あまり過度に期待しないほうが良い。しかし、トイレもありゆっくり憩う場所としては最高である。

「桂坂野鳥遊園」正門を出てすぐ右手、中学校の駐車場に電子基準点がある。ステンレス製の輝く約 5 m のタワーで丸い頭が特徴。山頂等に設置されている花崗岩製のいわゆる三角点は、現在は上空から GPS によってその位置を測量するが、電子基準点は自ら常時 GPS 観測を行っていて、リアルタイムで位置を送信している設備である。

三角点は全国で 10 万 9 千点有るが、電子基準点は全国で 1300 点しか無く、京都では宝ヶ池、京都教育大学等、19ヶ所あるが近くで見る機会は少ない。校外からも見えるので、中学校の敷地内には無断で入らないようにしたい。

「桂坂野鳥遊園」正門前左手の大きな施設が「国際日本文化研究センター」。日本文化に関する総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力を行うことを目的として、1987年（昭和62）に設立された文部科学省所轄のユニークな研究機関。

初代館長は梅原猛氏であり。最近テレビの歴史番組で良く見かける磯田道史先生は同センターの教授で、お化けの研究家小松和彦先生は同センターの名誉教授であり前所長でした。

フェンスを左に回り込むと広い芝生の「桂坂公園」に出る。美しいトイレもあり足を投げ出しの休憩には最適。眼下に見えるロータリーを回り込み、西へ50mで正門前の道路を南へ降り、交差点を左折し保育所の横の階段を降りると、フェンスに囲まれた凹地が古墳公園で、桂坂高級住宅地開発に伴い整備された古墳が十数基も保全されている。普段は未公開でイベント時のみ公開されているようだ。

桂坂センター前バス停があり、阪急桂駅、阪急洛西口駅、JR桂川駅までのバスが頻繁に発車している。

「所要時間参考」

「西山山麓トレッキングコース」

苔寺川松尾林道西山 51 （1時間50分← →1時間50分） 桂坂野鳥遊園

